再生医療に向けた iPS細胞の現状と課題

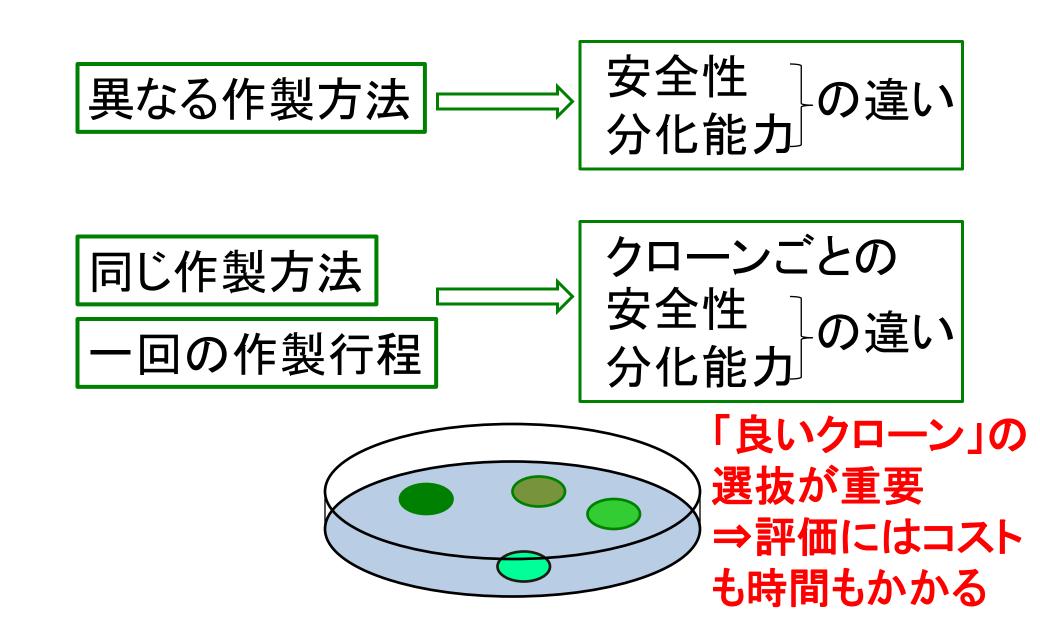
京都大学 iPS細胞研究所(CiRA) 青井貴之



2010/10/19

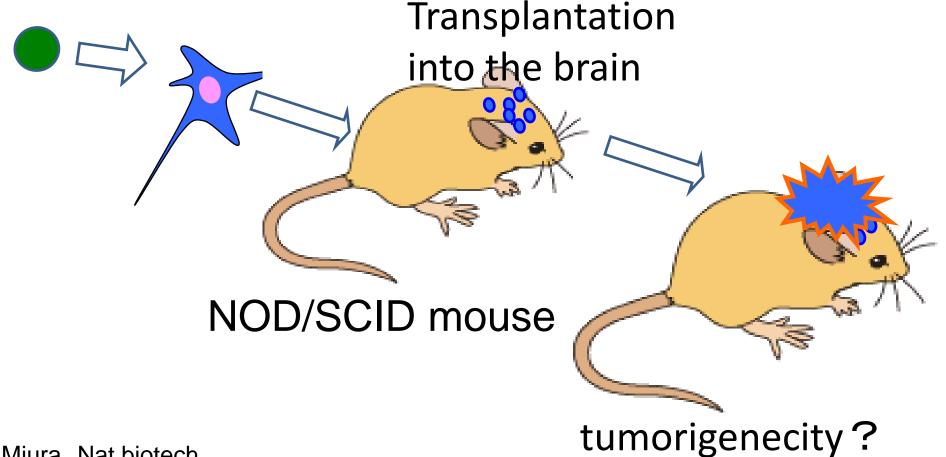
再生医療における制度的枠組みに関する検討会 (於 東京)

iPS細胞の多様性

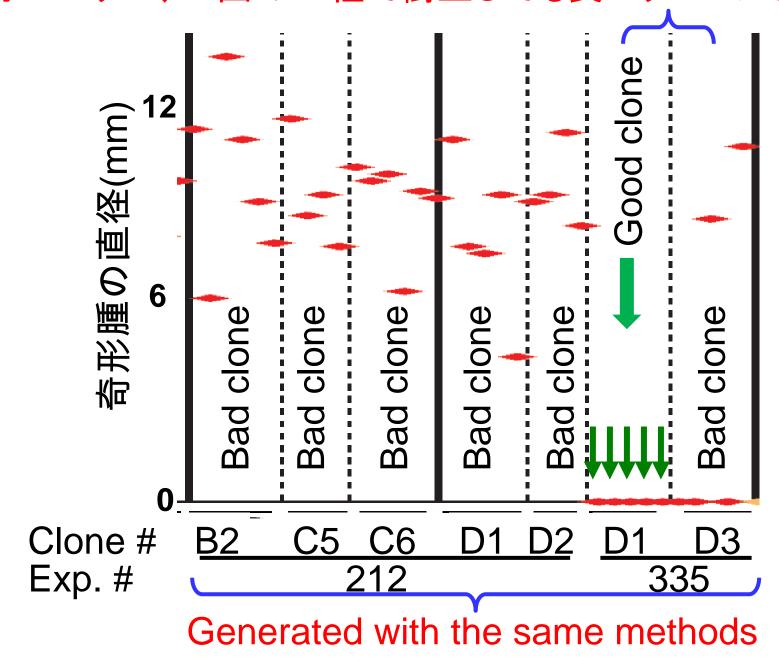


Mouse iPS cell→neurosphare→transplant

In vitro diff. to neuron



同一マウス、一回の工程で樹立しても良いクローンと悪いクローン

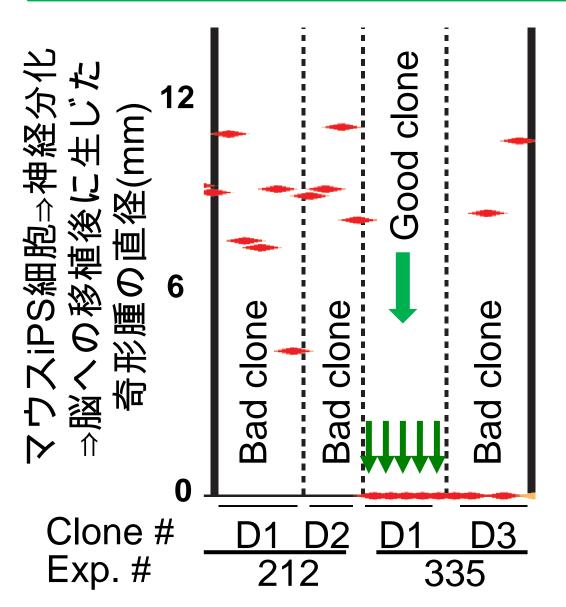


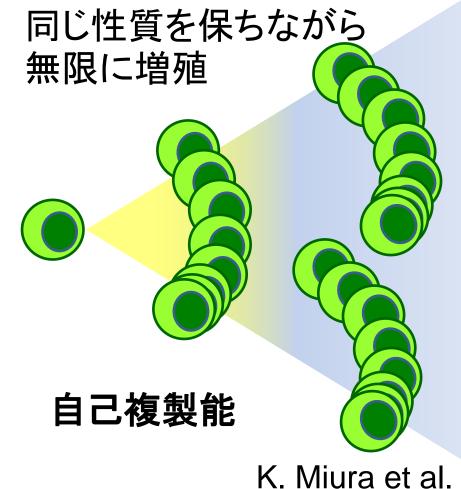
K. Miura et al. Nat.biotech.

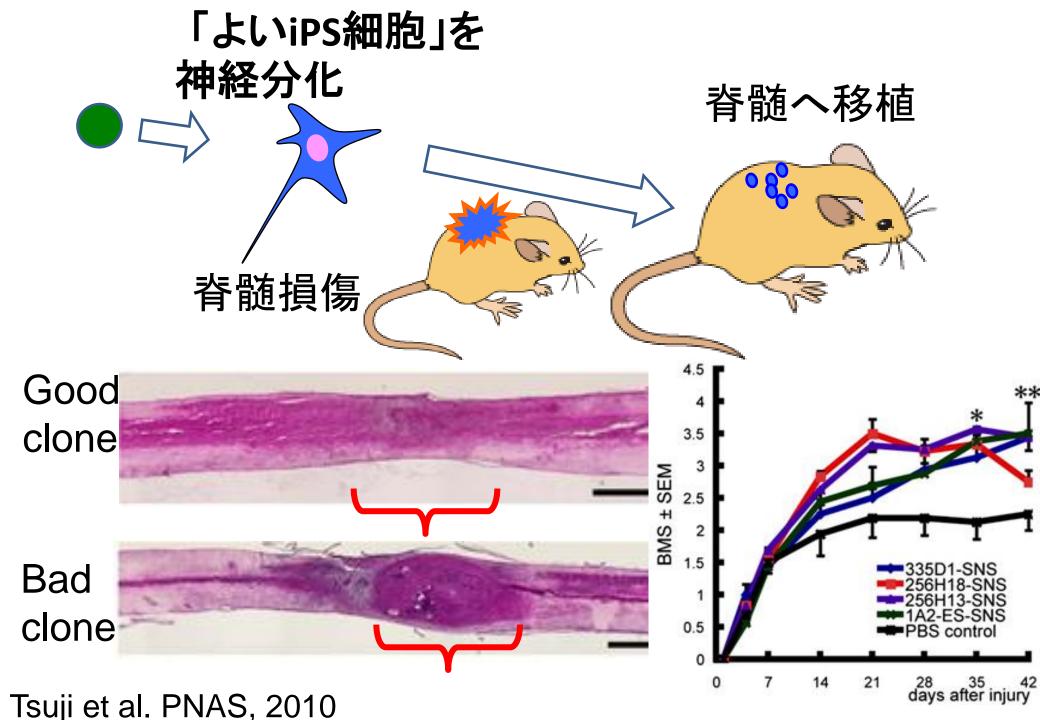
一旦、「よいクローン」を得ることができれば、 「よいiPS細胞」をラージロットで作ることができる



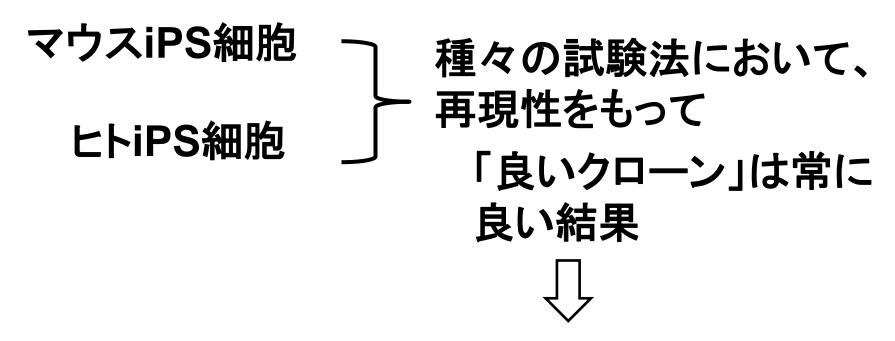
Nat.biotech.





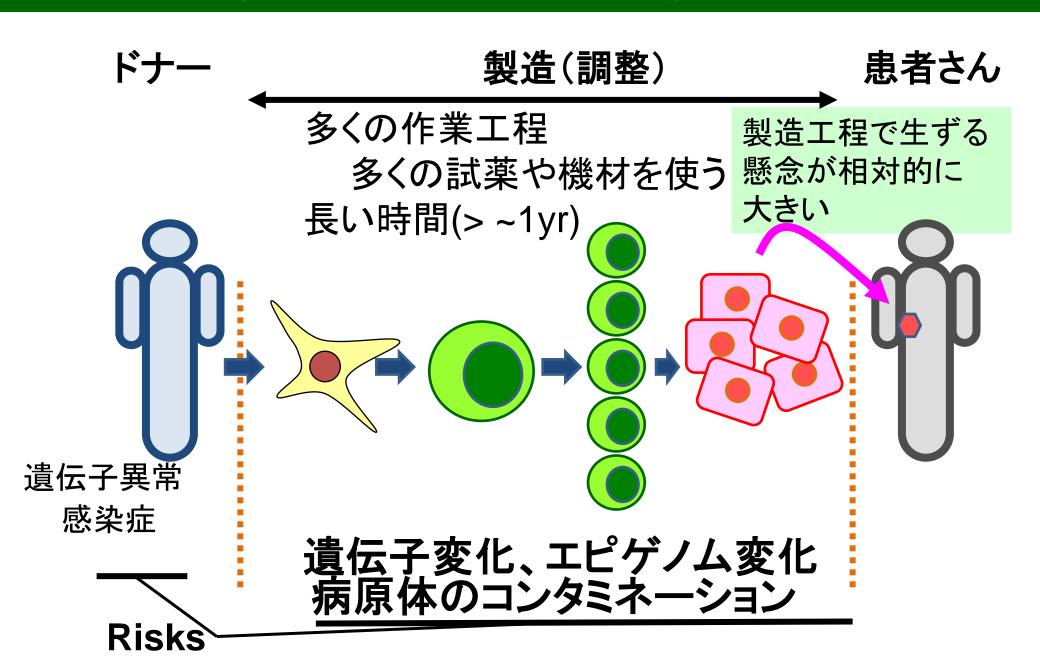


「良いクローン」はいつでもよい結果



「良いクローン」を選び、それを増やして使用する

iPS細胞を用いた再生医療のモデル



iPS細胞を用いた再生医療の安全性評価の問題点

ヒトへの移植医療でのリスクを反映するか?

ヒトと実験動物の違い 移植細胞数 移植部位 ゲノム・エピゲノム異常 と腫瘍の関係

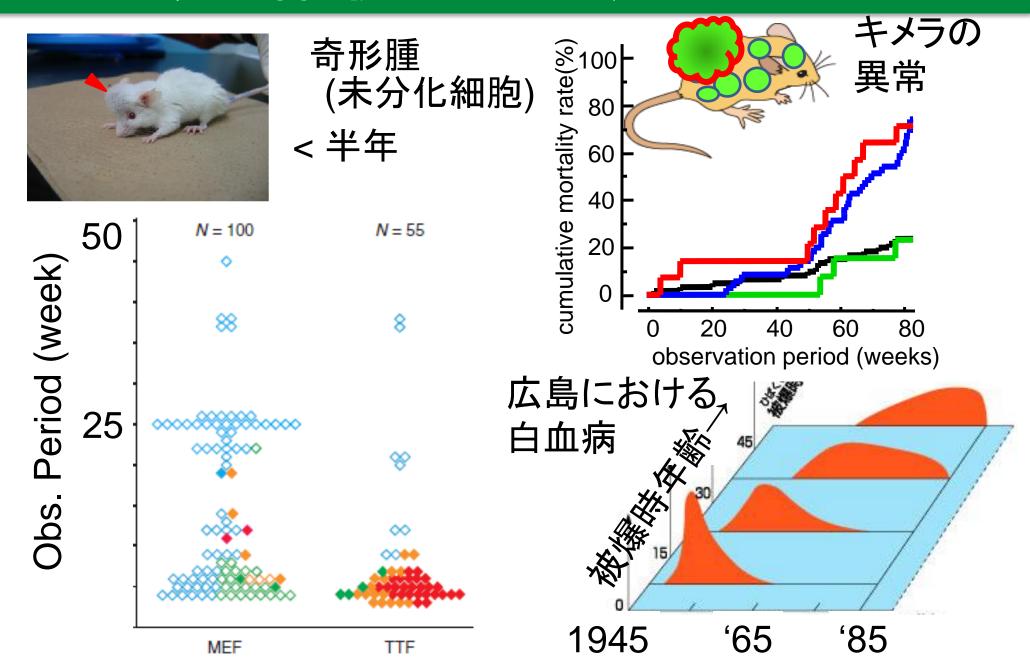
移植細胞に存在する危険因子+付加的要因⇒腫瘍発生

腫瘍発生時期は様々

実行可能なコスト・時間で行えるか?

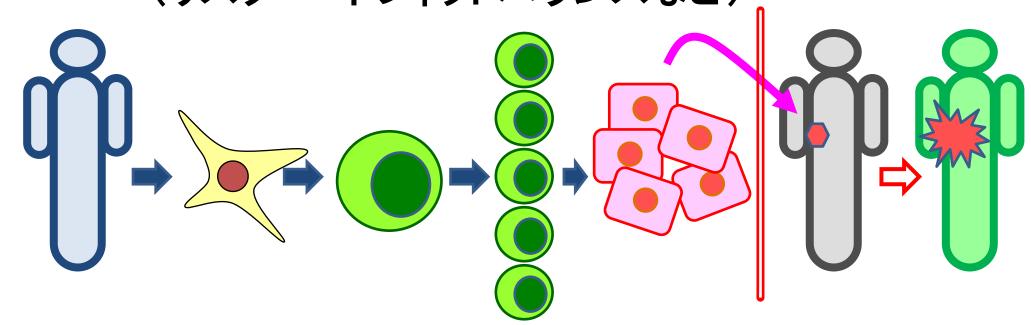
可能なことと不可能なことの整理、動物の寿命

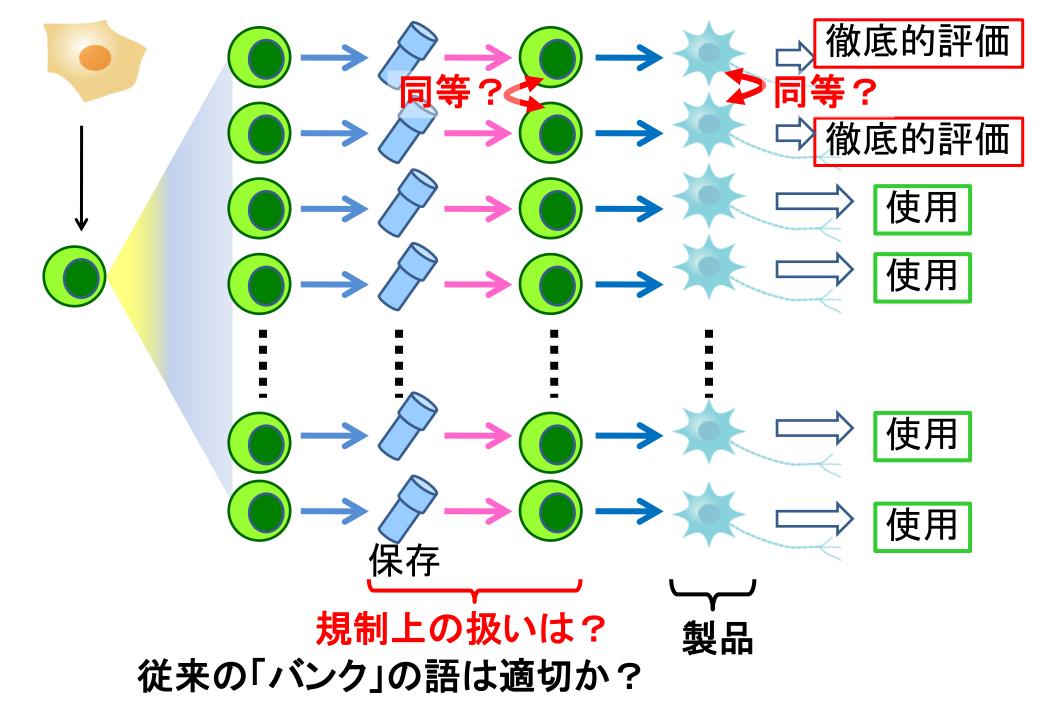
非臨床試験でできること、できないこと



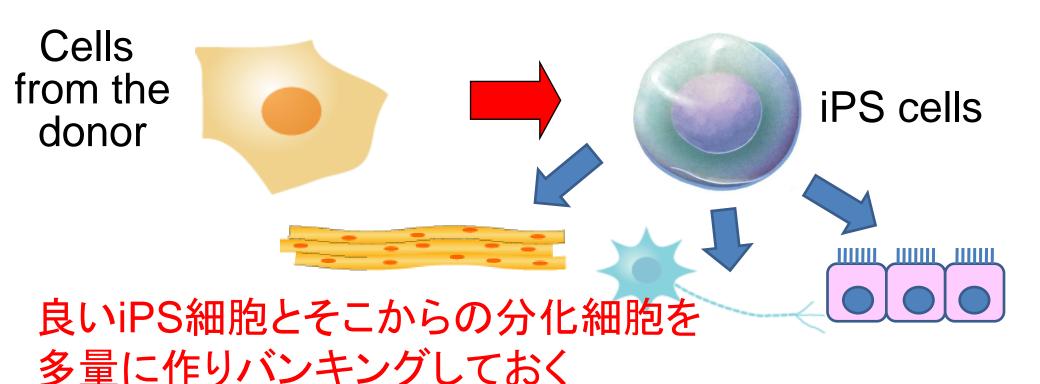
iPS細胞を用いた再生医療の安全性評価のために

系統的に選ばれたクローン(複数)を用い、 種々の評価方法による 十分にデザインされた包括的研究を統括的に行い 再生医療を目指す臨床的見地からの判断を行う (リスク・ベネフィットバランスなど)





iPS cell Bank



利点: 患者さんあたりのコストが低い

急性期疾患に適応可能(脊髄損傷など)

徹底的な品質評価可能

従来の幹細胞治療

採取医療機関



(加工医療機関)



移植医療機関

iPS細胞を用いた再生医療

採取医療機関

iPS細胞の利点を生かせる制度を

高い専門性を要する

"医療機関"である必要なし





分化誘導機関

分化誘導機関



移植医療機関

移植医療機関

移植医療機関